

サステナブル通信

No.36 2026年9月30日



作成：サステナブル推進委員会

「働く」の可能性を広げる！多様な障害者雇用のカタチ

前回の通信では、障害者雇用におけるD&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）の重要性や、組織へのプラス効果についてお伝えしました。今回は一步踏み込み、オフィス勤務だけではない、全国で広がっている【新しい雇用の選択肢】についてご紹介します。

注目される3つの多様な雇用形態モデル ※全国で導入事例が急増しています。



1 サテライトオフィス型

専門スタッフが常駐する外部オフィスで、PC入力やデータ作成等の業務を適隔で行う形態。

💡 ここがポイント！

安定した支援環境で業務に集中できるため環境などのミスマッチが少なく、デジタル化にも貢献。



2 農園型（農福連携）

自社または提供農園で、野菜・花の親培や収穫・出荷作業などをチームで担う形態。

💡 ここがポイント！

収穫物は社内イベントや福利厚生で社員へ還元され、社内コミュニケーションのきっかけに。



3 コーヒー焙煎・クラフト

選別から焙煎、パッケージングや社内カフェ運営などを丁寧な作業で担う形態。

💡 ここがポイント！

高品質な自社ブランド品としてアメニティやノベルティに活用され、企業価値向上に一役。

① 強み × 環境のベストマッチ

- ・「静かな環境が得意」「手先が器用」
- ・「体を動かす作業が好き」 など

+

👉 特性に合った環境で個々の能力が最大化！

② 社内コミュニケーション向上

- ・収穫野菜や自家焙煎コーヒーの活用
- ・部署を超えた対話や関わりが誕生

👉 組織全体の温かい風土づくりに貢献！

🌟 「働く人の笑顔」と「企業の組織活力」がダブルで向上する好循環へ！

知っておきたい！多様な働き方を支える「サポート体制」とミスマッチ防止の工夫



グループ
ミーティング